

## 梶田先生と振り返る思い出の一コマ

Vol.13

唐子飛行場跡の新郷開拓地に、1969(昭和44)年度から埼玉県企業局による東松山工業団地の造成工事が始まりました。5億9,000万円を投じて1976(昭和51)年に完成し、分譲の募集が開始されると88区に62企業の申し込みがありました。業種別では化学産業が一番多く、ついで金属、電気、鉄鋼、食品品の順となりました。

工業団地の総面積は、滑川町にまたがる73万6,000㎡!



最高分譲価格は2億114万円(8,900㎡)だったんだって。

## 東松山工業団地分譲開始

1976(昭和51)年



### キャラクター紹介

市内の小・中学生に配布された学習漫画『漫画でわかる 梶田隆章先生とニュートリノ』のキャラクターたちです。

ニュートリノ三兄弟



エチちゃん ミユちゃん タウっち

梨花(姉)



歩(弟)



梶田隆章先生



東松山市生まれ。東京大学宇宙線研究所所長・教授。1998年にニュートリノ振動の発見を発表。2015年にノーベル物理学賞を受賞。



たなかりえこ  
田中理恵子園長



～園長おすすめ キリン～



### 新しくなったキリン舎

動物園が開園して2年後の1982(昭和57)年3月、4頭のキリンが仲間入りしました。当時、高校を卒業し、春休みに飼育のアルバイトをしていた私は、輸送車の荷台の大きな箱から顔を出して不安そうに周りを見渡しているキリンの姿を少し離れて見ていました。

あれから約40年、キリン舎は老朽化が進み暖房が効きづらくなってきました。また、放飼場は冬に北風を避ける場所がなく、キリンたちもさすがに寒そう。そこで新しいキリン舎の建設が計画され、2022(令和4)年3月に念願のオープンとなったのです。

新しいキリン舎は、あえて放飼場の北側に新設したため、北風を避けることができます。舎内も冷暖房はバッチリ。全室にモニターが付き、観察も録画もできます。さらに、大きなキリンを保定(※)できる保定枠兼体重計も完備。アメリカから導入したもので、注射や治療がしやすくなり、キリンの健康をさらに管理できます。

そして一番のポイントは、大きなガラスの室内展示室。これまでは、雨天になるとキリンが室内に入ってしまうことが多く、見えにくかったり展示が中止になったりすることがありました。しかしこれからは、嵐の日でも室内のキリンを観察することができます。それもガラス1枚隔てた目の前で。なによりキリンの大きさを実感してもらいたくて、大きなガラスを用意しました。実はこの施設のモデルは、ドイツ・ミュンヘンの動物園のキリン舎です。訪れた時の感動を皆さんにも味わってほしかったのです。

新キリン舎は「キリンテラス」と名付けました。建物の立派さとその名前から「あら、レストランができたんだね～」と通り過ぎる人がいますが、食べ物はありませんのでご注意ください。

※動物を治療するとき等に動かないように押さえること。



新しいキリン舎で緊張している親子



北風も遮られるようになりました



大きなガラスの向こうにはキリン

